



広島工業大学附属広島高等学校・中学校同窓会 創立40周年記念総会 大盛況にて開催される

広島工業大学附属広島高等学校・附属中学校
事務長 山本 純司

広島工業大学附属広島高等学校・中学校同窓会では、5年毎に「同窓会総会」を開催している。本年はその開催年に当たり平成18年1月7日(土)、広島市中区の日全空ホテルにて開催された。今回は同窓会創立40周年記念総会であり、また鶴学園創立50周年も控えた大きな節目の総会となることから、多数の参加者が期待された。

参加者増の工夫

準備として平成16年10月から昨年の6月まで会員調査を行うと同時に10回程の役員会も開催し、参加者を増やす方法について協議し、次の4項目を実行した。

1. 同窓会からの案内状は、多くの場合中を見ずに捨てられがちなので、まず手に取り中を見てもらう。そして参加しようという気持ちが起こる内容にする等の工夫を行った。



・参加して下さる恩師の顔をパンフレットの表紙に載せ、透明封筒にすることで表紙が見えるようにした。

・卒業年度5期ごとにグループ化し、在学時に直接教えてもらった恩師の写真を載せたパンフレットを作る。

2. 案内状の内容を一工夫した。



・現母校の変貌を知らない世代向けに最近の進学実績やなぎさ公園小学校を掲載。

3. 特別会員として従来は教職員OBしか参加できなかったが、会則を

改定し、現職も参加可能とした。

4. 郵送方法にも手段を講じた。

- ・まず郵送料が安価なメール便を使う。
- ・返送された物は郵便で再発送する。
- ・それでも返送された物は、市販の電話帳データーを使い、もう一度発送しなおした。

この方法により不明者リストからも239名の方に知らせることができた。

20数名の会員からは、「よく調べてくれた」と電話でお礼をいただくとともに、趣旨を理解していただいた同姓同名の方も「違うよコール」をくださった。

その甲斐あって、過去最高の350名の参加が得られた。5年前の前総会の2倍、前々回の1.5倍の参加者であった。

総勢350名の記念総会

第1部の総会は、道田聡副会長の総会司会で行われた。議長には、森中祥二会長が選出され、会長より母校と本会の伝統と実績をたたえ、今後の一層の発展を祈るとの挨拶に続いて、手際よく決算・予算ほか会計事項が報告・審議・承認された。また、同窓会会則改定の報告がなされた。



森中 祥二 会長



道田 聡 副会長

記念講演

第2部の講演会においては講師の八川有人校長より「中学校・高等学校の教育現場からの報告」というテーマ

で学校の近況や今後について話された。

本校設立当時を振り返りながら、現在の学力レベルの高い、男女共学の中高一貫校へと発展してきた経緯についての講演であった。初期に卒業した同窓会の方々には、本校の目を見張る発展に、一種の驚きにも似た喜びを感じていたようだった。



懇親会

来賓として学園から鶴衛理事長、高木俊宜総長のご出席もいただいた。

第1期卒業生をはじめとして、昨年3月に卒業したばかりのフレッシュな同窓会員まで、総勢350名の参加を得て、大盛況のうちに始まった。

特筆すべきは、この5年以内の卒業生がほぼ半数という、近年になく若い層の多い同窓会となったことで、今後ますます同窓会活動が盛んになっていくものと期待される。

最初は本校の吹奏楽部、室内楽部、合唱部の3部合同、70名の部員によるウェルカム演奏(美女と野獣)とともに入場が始まり、オペラ座の怪人他3曲、約20分のミニオーケストラコンサートが演奏され、華やかな雰囲気の中で幕を開けた。

第18回卒業生の井手一裕副会長が司会を務められ、同窓会の森中会長、道田副会長の挨拶があり、続いて来賓を代表して鶴理事長、高木総長のご挨拶

をいただいた。

会場入口には校旗が立てられ、さらに鶴学園全校の学校案内や本校の特色教育のパンフレットが並べられ、懐かしさと共に、学園並びに本校の発展も感じられる工夫もされた。



「広二会」から学園へ寄附の贈呈

来賓挨拶の後、昭和42年度卒業生の集まりである「広二会」の佐々木勝会長から、学園に鶴学園50周年記念事業に対する寄附の目録贈呈があり、鶴理事長から感謝状が手渡された。

この寄附は、今後展開される鶴学園50周年記念事業の募金活動の先駆けとして、広報的役割を果たしたものであると思う。

前校長の松谷英明先生の音頭で乾杯が行われ、しばし歓談の時間へ。

懇親会は立食スタイルで、卒業年度の近い会員が、当時お世話になった先生方を取り囲むよう、テーブルが設けられた。案内状に印刷された若かりし頃の先生の顔と、目の前の恩師の顔とを見比べたり、お互い老けたと苦笑しながら、昔を懐かしむ級友同士がいたり、広い会場全体に話し声が絶えない状況であった。

ビデオ上映

和やかな雰囲気の中、中央のスクリー

ーンには、本校の特色教育の一つである体験型の研修旅行取材したVTRが映し出された。これはTBS系列の「小さな宇宙船地球号」という番組で、昨年に全国放送されたものである。

観光旅行の延長のような、従来型の見聞重視の修学旅行しか知らない同窓会員には、驚きの内容であった。

「40年間 時代の旅」

心もお腹も満たされはじめたころ、「40年間 時代の旅」と題して、第1期卒業生から昨年の卒業生までの、卒業アルバムのスライドショーが始まった。

開始直後、ほとんどの人はテーブルの周りから傍観していたが、進行とともにスクリーン前に集まり始め、映像の中に当時の自分の姿を探したり、恩師の若い姿に歓声を上げるなど、次第に盛り上がってきた。写真自体もモノクロから始まり、次第にカラーに変わる。風景、校舎、制服、髪型、時の移ろいとともに変わっていく様子に、40年という長い歴史が感じられた。アルバムの集合写真も、その時代によって構図が変わり、男女共学から男子校、さらに男女共学へ戻る本校の変遷も一目瞭然であった。

スライドの進行に合わせて、懐かしの

先生方が順次ステージに上がられ、当時の思い出や当日の感想を語られた。

校歌斉唱、万歳三唱

懇親会も終わりに近づき、全員での校歌斉唱が始まった。第30期卒業生までの旧校歌は、片岡隆司先生が、第31期以降の新校歌は、町田鉄男先生がソングリーダーを務められた。

歌詞が写し出されたスクリーンをバックに、朗々と響く歌声に、同窓生全員の心が一つになった瞬間だった。



片岡 隆司 先生

町田 鉄男 先生

会場の雰囲気も最高潮に達したころ、角島誠教頭先生の大変元気なご発声による万歳三唱が行われた。

同窓会役員 大下博正様の閉会のことばを最後に、懐かしく楽しい時間であった同窓会創立40周年記念総会が幕を閉じた。

